

商工会議所 L O B O (早期景気観測)

- - 平成 1 9 年 2 月調査結果 - -

(平成 1 9 年 3 月 2 日)

調査期間：平成 1 9 年 2 月 1 9 日 ~ 2 3 日

調査対象：全国の 4 0 7 商工会議所が 2 5 8 8 業種組合などにヒアリング
(内訳) 建設業 3 8 0 製造業 6 2 2 卸売業 2 3 4
小売業 7 3 8 サービス業 6 1 4

調査項目：今月の売上・採算・業況などについての状況 (D I 値を集計)
及び、業界として当面する問題など

D I 値について

D I 値は、売上・採算・業況などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

D I = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)
業況・採算 : (好転) - (悪化) 売上 : (増加) - (減少)

日本商工会議所

本件担当：産業政策部 TEL: 0 3 - 3 2 8 3 - 7 8 3 6
E-Mail: sangyo@jcci.or.jp

なお、本調査結果は日商ホームページ(<http://www.jcci.or.jp>)でもご覧になれます。

【平成19年2月調査結果のポイント】

業況DIは3カ月ぶりに改善するも、基調は横ばい

2月の景況をみると、全産業合計の業況DI（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（28.0）よりマイナス幅が0.2ポイント縮小して27.8となり、3カ月ぶりにマイナス幅が縮小した。

産業別の業況DIは、建設、卸売、小売でマイナス幅が拡大したものの、他の2業種で縮小した。

景気に関する声、当面する問題としては、各業種から業況好調、暖冬の好影響等による売上増加、消費回復、採算好転、先行き期待という声が寄せられている一方、公共工事や来店者数の減少、消費の低迷など業況低迷、暖冬の悪影響、仕入コストの高止まりによる採算悪化、廃業の増加、借入金利引き上げへの懸念を訴える声も聞かれる。

【建設業】では、「増改築工事の受注件数が増加傾向にある」（建築工事）との声がある一方、「公共事業縮小による競争激化、仕入コスト上昇と価格転嫁難、金利負担の増大などの問題を抱えている。今後、公共工事、民間工事ともに心細い」（建築工事）、「公共工事の縮小で先行きが不透明であるとともに、今冬は少雪による除雪作業激減の影響を受けている」（一般工事）との声も寄せられている。

【製造業】では、「仕入コスト上昇分の販売価格への転嫁で採算が好転しており、業況悪化も底が見え始めた」（他の輸送用機器製造）、「業況は好調を維持しており、顧客の設備投資意欲は引き続き旺盛である」（通信機械器具製造）との声があるものの、「設備投資に積極的な声がある一方、借入金利が上昇した場合の経営圧迫を懸念する声も聞かれている」（金属加工機械製造）、「原材料の仕入コストは高止まりのまま推移しているとともに、暖冬の影響で冬物衣料品用製品の出荷は低迷を続けている」（ニット生地製造）と、借入金利引き上げへの懸念や暖冬の影響を訴える声も寄せられている。

【卸売業】では、「先行きは油断できないものの、売上が増加傾向を示しており、景気が好転すれば非常に喜ばしい」（農畜産水産物卸売）との声がある一方、「暖冬の影響を受け、日用品雑貨や繊維関係の冬物商品の売上が例年に比べて低調であった」（衣服・日用品卸売）、「今後、金利引き上げが景気にどのような影響を及ぼすかが気になる」（各種商品卸売）と、暖冬の影響や借入金利引き上げへの懸念を訴える声も寄せられている。

【小売業】では、「今冬は暖冬で春物商品の売上が好調な滑り出しを見せている」（百貨店）と、暖冬の好影響を挙げるコメントが寄せられている一方で、「暖冬の影響もあり冬物商品の売上が減少したとともに、輸入商品を扱う小売店はユーロ高により商品の仕入に消極的にならざるをえなくなっている」（商店街）と、暖冬による冬物商品の売上低迷と為替の影響を訴える声のほか、「企業の好況が個人消費の回復や物価の上昇に結びついていないとの意見が多い」（百貨店）との声も寄せられている。

【サービス業】では、「暖冬の影響で個人客の予約が好調であるのに加え、ビジネス客のネット予約も伸びている」（旅館）との声がある一方で、「暖冬の影響で秋物のクリーニング依頼が例年に比べて少なく、売上が減少している」（洗濯）と、暖冬の好影響と悪影響の両方を示すコメントが寄せられている。また、「業況は好転しておらず、廃業件数は依然、増加している」（食堂・レストラン）との声も寄せられている。

売上面では、全産業合計の売上DIは、マイナス幅が1.8ポイント縮小して19.7となり、4カ月ぶりに縮小した。産業別にみると、DI値は建設、卸売でマイナス幅が拡大したものの、サービスで横ばい、他の2業種で縮小した。

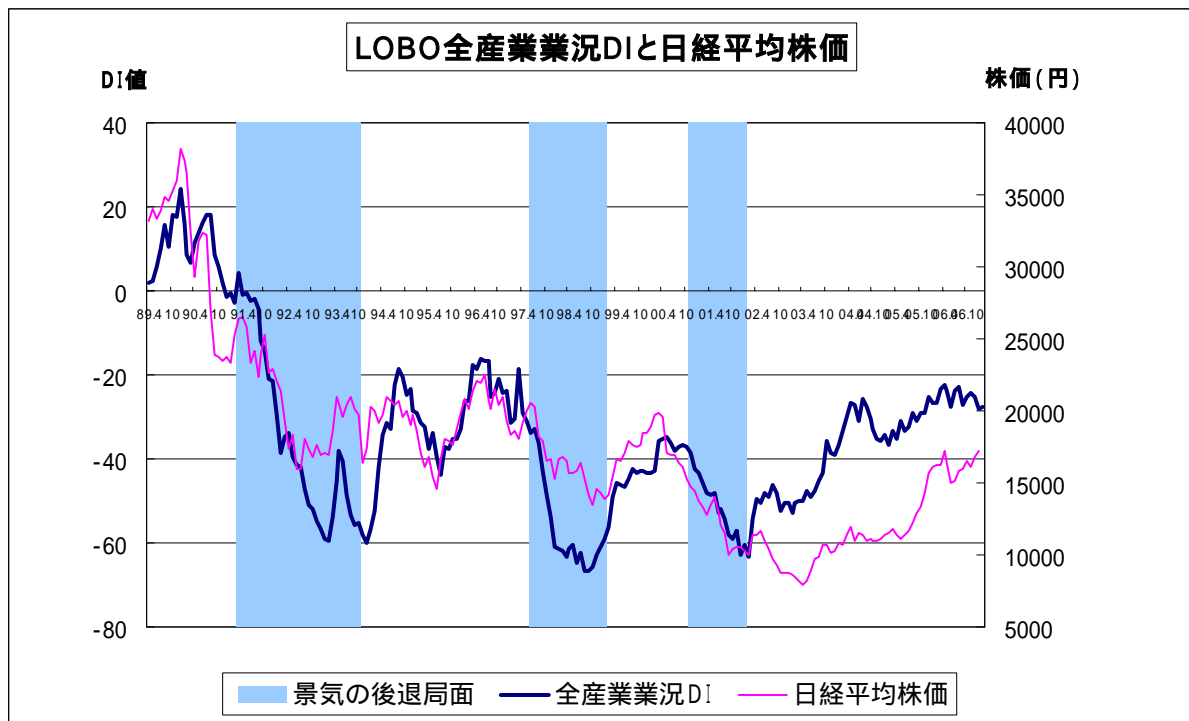
採算面では、全産業合計の採算DIは、マイナス幅が0.9ポイント縮小して25.4となり、3カ月ぶりに縮小した。産業別にみると、DI値のマイナス幅は卸売、小売、サービスで拡大したものの、他の2業種で縮小した。

資金繰り面では、全産業合計の資金繰りDIは、悪化超感が0.1ポイント弱まって19.5となり、3カ月ぶりに弱まった。産業別にみると、DI値の悪化超感卸売、小売、サービスで強まったものの、他の2業種で弱まった。

仕入単価面では、全産業合計の仕入単価DIは、上昇超感が0.8ポイント弱まって21.0となり、2カ月連続で弱まった。産業別にみると、DI値の上昇超感卸売、サービスで強まったものの、建設で横ばい、他の2業種で弱まった。

従業員面では、全産業合計の従業員DIは、2カ月ぶりに過剰超感から不足超感に転じた。産業別にみると、DI値は卸売で過剰超感が強まり小売で不足超感が弱まったものの、建設で横ばい、他の2業種で不足超感が強まった。

向こう3カ月(3月～5月)の先行き見通しについては、全産業合計の業況DI(今月比ベース)が20.0と、昨年同時期の先行き見通し(16.9)に比べて悪化している。



【業況についての判断】

2月の景況をみると、全産業合計の業況D I（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（ 28.0 ）よりマイナス幅が0.2ポイント縮小して 27.8となり、3カ月ぶりにマイナス幅が縮小した。

産業別にみると、建設、卸売、小売でマイナス幅が拡大したものの、他の2業種で縮小した。

向こう3カ月（3月～5月）の先行き見通しについては、全産業合計の業況D I（今月比ベース）が 20.0と、昨年同時期の先行き見通し（ 16.9 ）に比べて悪化している。

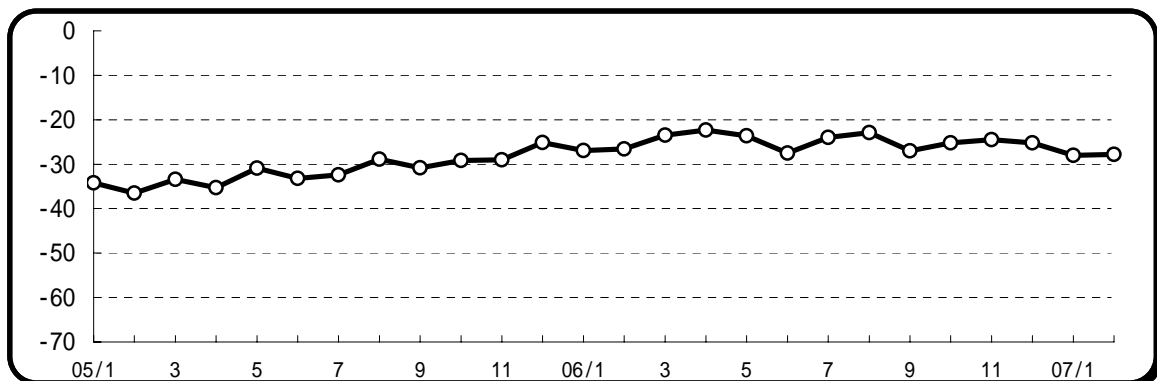
産業別に昨年同時期の先行き見通しと比較した場合、サービスでマイナス幅が縮小しているものの、他の4業種で拡大している。

業況D I（前年同月比）の推移

	18年 9月	10月	11月	12月	19年 1月	2月	先行き見通し 3～5月
全産業	27.0	25.2	24.5	25.2	28.0	27.8	20.0 (16.9)
建設	43.1	38.1	39.6	34.4	40.4	41.5	37.2 (33.5)
製造	14.3	13.4	11.3	15.2	18.1	14.3	13.9 (9.2)
卸売	32.9	34.4	36.6	31.3	31.9	35.8	25.0 (21.1)
小売	22.0	23.1	22.8	25.6	28.7	30.0	19.0 (13.9)
サービス	33.3	28.1	25.7	27.0	28.1	27.2	14.0 (16.4)

「先行き見通し」は当月に比した向こう3カ月の先行き見通しD I
（ ）内は昨年2月の先行き見通しD I <以下同じ>

《業況D I（全産業・前年同月比）の推移》



【売上（受注・出荷）の状況についての判断】

売上面では、全産業合計の売上D Iは、マイナス幅が1.8ポイント縮小して19.7となり、4カ月ぶりに縮小した。産業別にみると、D I値は建設、卸売でマイナス幅が拡大したものの、サービスで横ばい、他の2業種で縮小した。

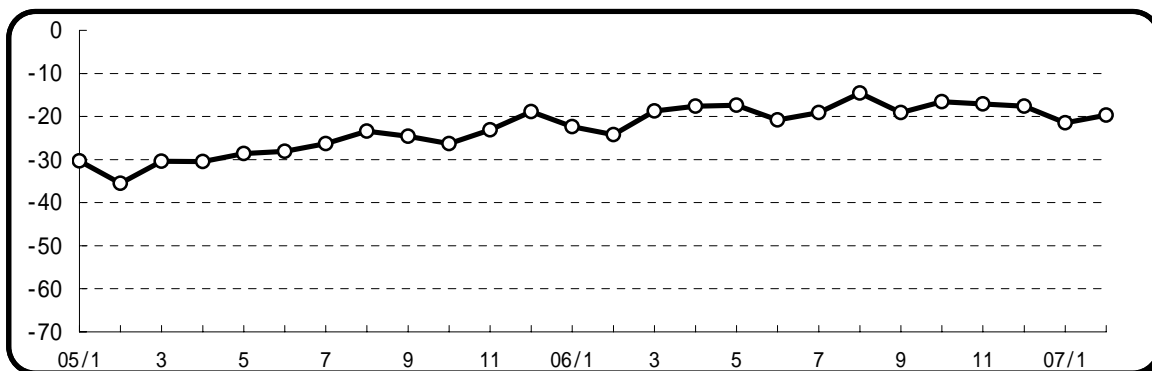
向こう3カ月(3月～5月)の先行き見通しについては、全産業合計の売上D I(今月比ベース)が12.9と、昨年同時期の先行き見通し(10.5)に比べて悪化している。

産業別に昨年同時期の先行き見通しと比較した場合、卸売、サービスでマイナス幅が縮小しているものの、他の3業種で拡大している。

売上（受注・出荷）D I（前年同月比）の推移

	18年 9月	10月	11月	12月	19年 1月	2月	先行き見通し 3～5月
全産業	19.1	16.6	17.1	17.6	21.5	19.7	12.9 (10.5)
建設	34.4	29.6	32.4	27.3	29.7	30.0	32.7 (30.4)
製造	4.8	1.2	2.9	4.2	8.9	0.5	4.6 (0.5)
卸売	20.9	22.9	30.7	22.5	29.4	33.3	16.7 (17.8)
小売	18.3	17.0	20.7	19.5	26.6	26.0	10.5 (6.3)
サービス	23.7	23.8	18.3	20.9	20.0	20.0	10.3 (10.6)

《売上（受注・出荷）D I（全産業・前年同月比）の推移》



【採算の状況についての判断】

採算面では、全産業合計の採算D Iは、マイナス幅が0.9ポイント縮小して25.4となり、3カ月ぶりに縮小した。産業別にみると、D I値のマイナス幅は卸売、小売、サービスで拡大したものの、他の2業種で縮小した。

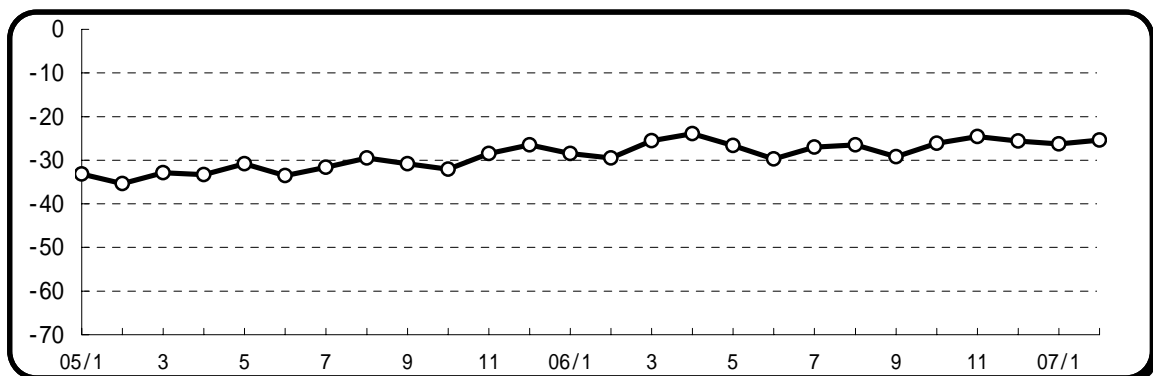
向こう3カ月(3月～5月)の先行き見通しについては、全産業合計の採算D I(今月比ベース)が17.1と、昨年同時期の先行き見通し(17.2)に比べてわずかながら改善している。

産業別に昨年同時期の先行き見通しと比較した場合、製造、卸売、小売でマイナス幅が拡大しているものの、他の2業種で縮小している。

採算D I (前年同月比) の推移

	18年					19年	先行き見通し 3～5月
	9月	10月	11月	12月	1月	2月	
全産業	29.2	26.1	24.6	25.6	26.3	25.4	17.1 (17.2)
建設	45.2	42.0	43.8	43.0	41.4	36.2	33.9 (34.9)
製造	25.9	21.7	16.2	18.8	20.4	16.0	13.7 (11.3)
卸売	22.8	29.3	29.4	30.6	31.3	31.4	16.0 (15.8)
小売	20.6	18.7	19.1	18.5	24.1	25.4	14.5 (12.9)
サービス	34.9	27.8	25.5	27.8	23.6	25.9	13.2 (17.6)

《採算D I (全産業・前年同月比) の推移》



(参考)

資金繰りD I (前年同月比)の推移

	18年 9月	10月	11月	12月	19年 1月	2月	先行き見通し 3~5月
全産業	18.5	19.2	16.6	17.6	19.6	19.5	17.9 (15.4)
建設	30.3	30.8	27.3	29.5	30.5	29.6	34.2 (30.0)
製造	13.3	15.2	12.7	13.9	14.0	11.1	11.8 (11.4)
卸売	11.4	18.2	14.5	19.3	18.5	19.0	16.2 (15.7)
小売	14.4	16.2	12.5	13.6	19.6	21.5	16.5 (12.5)
サービス	23.7	18.7	18.9	17.1	18.4	19.6	15.7 (13.3)

D I = (好転の回答割合) - (悪化の回答割合)

【前年同月比D I】全産業合計は悪化超感が3カ月ぶりに弱まった。産業別にみると、卸売、小売、サービスで悪化超感が強まったものの、他の2業種で弱まった。

【先行き見通しD I】全産業合計は悪化超感が強まる見通し。産業別にみると、全業種で悪化超感が強まる見通し。

仕入単価D I (前年同月比)の推移

	18年 9月	10月	11月	12月	19年 1月	2月	先行き見通し 3~5月
全産業	30.0	27.1	24.4	26.0	21.8	21.0	16.3 (17.1)
建設	35.1	34.2	35.6	38.0	34.1	34.1	26.6 (22.8)
製造	47.6	40.7	41.4	42.9	40.0	34.8	26.0 (24.3)
卸売	36.7	34.4	24.2	27.5	15.0	20.1	15.9 (19.1)
小売	14.8	12.7	10.9	8.7	7.5	6.9	7.2 (9.6)
サービス	24.4	23.0	16.3	20.4	15.0	15.6	10.5 (14.0)

D I = (下落の回答割合) - (上昇の回答割合)

【前年同月比D I】全産業合計は上昇超感が2カ月連続で弱まった。産業別にみると、卸売、サービスで上昇超感が強まる一方、建設で横ばい、他の2業種で上昇超感が弱まった。

【先行き見通しD I】全産業合計は上昇超感が弱まる見通し。産業別にみると、建設、製造で上昇超感が強まる一方、他の3産業で弱まる見通し。

従業員 D I (前年同月比) の推移

	18年 9月	10月	11月	12月	19年 1月	2月	先行き見通し 3~5月
全産業	1.1	0.2	0.4	2.7	0.2	0.6	3.1 (3.5)
建設	16.4	14.7	13.4	12.9	14.7	14.7	14.3 (17.1)
製造	0.2	1.9	3.2	3.9	0.0	3.6	7.1 (5.8)
卸売	5.7	3.2	3.3	1.3	5.0	6.9	9.7 (6.4)
小売	4.7	5.9	5.5	8.2	6.0	5.9	3.0 (3.8)
サービス	2.5	1.2	1.7	7.0	3.4	3.9	3.3 (0.5)

D I = (不足の回答割合) - (過剰の回答割合)

- 【前年同月比 D I】全産業合計は2カ月ぶりに過剰超感から不足超感へ転じた。産業別にみると、卸売で過剰超感が強まり、小売で不足超感が弱まる一方、建設で横ばい、他の2業種で不足超感が強まった。
- 【先行き見通し D I】全産業合計は過剰超感が弱まる見通し。産業別にみると、製造、卸売で過剰超感が強まり、小売で不足超感が弱まる一方、建設で過剰超感が弱まり、サービスで不足超感が強まる見通し。

【平成19年2月の景気キーワード】

景況一進一退

ヒアリング先からは、業況好調、受注増加、先行き期待という声が寄せられている。「一部の事業所では、受注量の増加や従業員の採用など前向きな動きが見られる」（各務原・金属加工機械製造）「これから春にかけて、卒業・入学のお祝いなど春特有の需要に期待したい」（上田・他の一般飲食店）とのコメントが寄せられている。一方、「公共事業の縮小により先行き不透明感が強く、特に中小零細事業者に対する影響は大きい」（甲府・一般工事）「古紙やパルプなど原材料の仕入コストが上昇しているが、その分を販売価格に転嫁できず、厳しい状態が続いている」（川之江・紙製造）「顧客である一般酒販店や飲食店の業況は冷え込んでおり、卸売業者の売上も低迷している」（宮古・食料・飲料卸売）と、公共工事の縮小や売上低迷など業況低迷、仕入コスト上昇による採算悪化を訴えるコメントも寄せられている。

暖冬の影響

また、暖冬の悪影響による業況低迷を訴える声が寄せられている一方、来店者数増加など暖冬の好影響を挙げる声も聞かれている。建設、卸売、小売からは、「暖冬の影響による降雪量の減少により除雪作業が皆無で資金繰りに悪影響が出ている」（沼田・一般工事）「暖冬の影響で鍋料理に利用する食材の売れ行きが悪い」（福島・農畜産水産物卸売）「暖冬により冬物商品の売れ行きが低迷しているとともに、春物の商品売り出そうにも冬物商品の在庫が残っているうちは仕入れることすら難しい」（伊那・百貨店）との声が寄せられている。一方で、小売、サービスからは、「暖冬により降雪量が少なく、来店者数が増加している」（青森・百貨店）「今年は昨年と比較して良い天気が続く観光客の来館も多く、業況は若干ではあるが好転している」（金沢・旅館）「トラックの燃料である軽油価格が下落傾向にあるとともに、暖冬の影響で飲料製品の荷動きが好調」（石岡・その他サービス）といったコメントも寄せられている。

借入金利引き上げ懸念

一方、借入金利引き上げへの懸念を訴える声も聞かれている。建設、製造からは、「エネルギーコストの低減分が借入金利負担の増加で相殺されてしまうことを懸念している」（金沢・織物）「借入金利が引き上げられた場合、企業の設備投資が減少する恐れがある」（相模原・金属加工機械製造）「金利水準は経営に影響を与えるため、今後の金利の動向が気付きである」（新居浜・一般産業用機械製造）との声が寄せられている。また、卸売、小売からは、「資金繰りを考える上で、金利上昇への動きに対する警戒感が強い」（福島・農畜産水産物卸売）「今のところ悪影響を受けているわけではないが、金利動向は今後注目すべきポイントと感じている」（倉吉・農畜産水産物卸売）「次回の日銀による金利引き上げ決定がいつ行われるかに注目している」（札幌・百貨店）といったコメントも寄せられている。

【景気キーワードの推移】

年 月	景気キーワード		
18年12月	回復への動き	悪化への懸念	冬物の売上低迷
19年 1月	回復への動き	悪化への懸念	暖冬の影響・効果
2月	景況一進一退	暖冬の影響	借入金利引き上げ懸念

景気キーワードは、調査対象組合の各月におけるトピック・関心事項などに関する自由回答をまとめたもの。

本文中の（ ）内は、（地名・業種）を示す。

【産業別概況】

産 業	概 況
建 設	<p>業況・売上D Iは2カ月連続でマイナス幅が拡大し、採算D Iは3カ月連続で縮小した。「増改築工事の受注件数が増加傾向にある」(建築工事)との声がある一方、「公共事業縮小による競争激化、仕入コスト上昇と価格転嫁難、金利負担の増大などの問題を抱えている。今後、公共工事、民間工事ともに心細い」(建築工事)「公共工事の縮小で先行きが不透明であるとともに、今冬は少雪による除雪作業激減の影響を受けている」(一般工事)「今後、公共事業は縮小していく見込みであり、民間工事も上向きへの動きが見られない」(管工事)といった声も寄せられている。</p>
製 造	<p>業況・売上・採算D Iともに3カ月ぶりにマイナス幅が縮小した。「仕入コスト上昇分の販売価格への転嫁で採算が好転しており、業況悪化も底が見え始めた」(他の輸送用機器製造)「業況は好調を維持しており、顧客の設備投資意欲は引き続き旺盛である」(通信機械器具製造)との声があるものの、「設備投資に積極的な声がある一方、借入金利が上昇した場合の経営圧迫を懸念する声も聞かれている」(金属加工機械製造)「原材料の仕入コストは高止まりのまま推移しているとともに、暖冬の影響で冬物衣料品用製品の出荷は低迷を続けている」(ニット生地製造)といった声が寄せられている。</p>
卸 売	<p>業況・売上D Iは2カ月連続、採算D Iは5カ月連続でマイナス幅が拡大した。「先行きは油断できないものの、売上が増加傾向を示しており、景気が好転すれば非常に喜ばしい」(農畜産水産物卸売)との声がある一方、「暖冬の影響を受け、日用品雑貨や繊維関係の冬物商品の売上が例年に比べて低調であった」(衣服・日用品卸売)「売上高は前年同月比で横ばいであったが、先行きは楽観できない」(食料・飲料卸売)「今後、金利引き上げが景気にどのような影響を及ぼすかが気になる」(各種商品卸売)といった声が寄せられている。</p>
小 売	<p>業況D Iは3カ月連続、採算D Iは2カ月連続でマイナス幅が拡大し、売上D Iは2カ月ぶりに縮小した。「今冬は暖冬で春物商品の売上が好調な滑り出しを見せている」(百貨店)「例年に比べて気温が高く好天の日が多かったため、街を歩く人の数が増えたと感じている」(商店街)との声がある一方、「暖冬の影響もあり冬物商品の売上が減少したとともに、輸入商品を扱う小売店はユーロ高により商品の仕入に消極的にならざるをえなくなっている」(商店街)「企業の好況が個人消費の回復や物価の上昇に結びついていないとの意見が多い」(百貨店)「税金や保険料など公的負担の増加により可処分所得が減少し消費支出が切り詰められている気配があり、売上の回復は当分の間、見込めない」(百貨店)といった声が寄せられている。</p>
サービス	<p>業況D Iは3カ月ぶりにマイナス幅が縮小し、売上D Iは横ばい、採算D Iは2カ月ぶりにマイナス幅が拡大した。「天候に恵まれて客足はまずまずであり、業況は間もなく底を打つのではないか」(理容)「暖冬の影響で個人客の予約が好調であるのに加え、ビジネス客のネット予約も伸びている」(旅館)「景気回復の影響が及んできたのか、保管貨物の荷動きが前年同月を上回る傾向を見せている」(その他サービス)との声がある一方、「暖冬の影響で秋物のクリーニング依頼が例年に比べて少なく、売上が減少している」(洗濯)「業況は好転しておらず、廃業件数は依然、増加している」(食堂・レストラン)といった声が寄せられている。</p>

(参考)

【ブロック別概況】

ブロック別の業況D I (前年同月比ベース)は、東北、東海、近畿、中国、九州でマイナス幅が拡大したものの、他の4ブロックで縮小した。なお、全ブロック合計は3カ月ぶりにマイナス幅が縮小した。

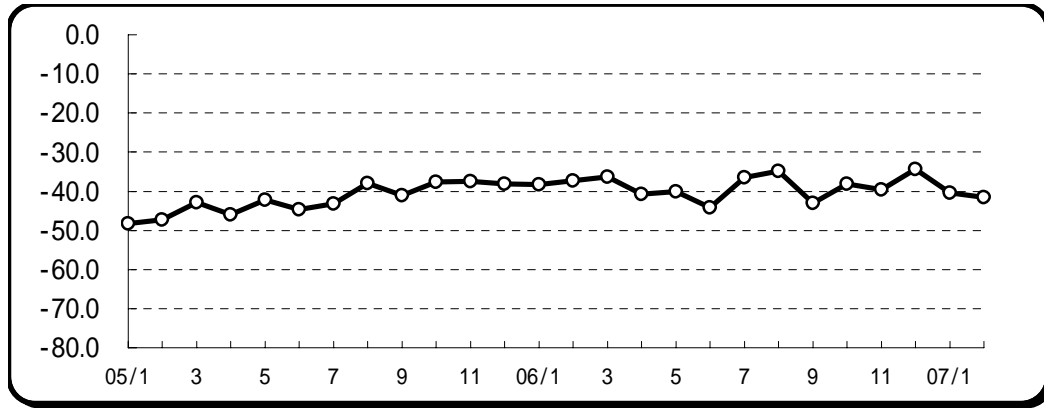
ブロック別の向こう3カ月(3月~5月)の業況の先行き見通しは、昨年同時期と比べて、北陸信越、近畿、中国で改善しているものの、他の6ブロックで悪化している。

ブロック別・全産業業況D I (前年同月比)の推移

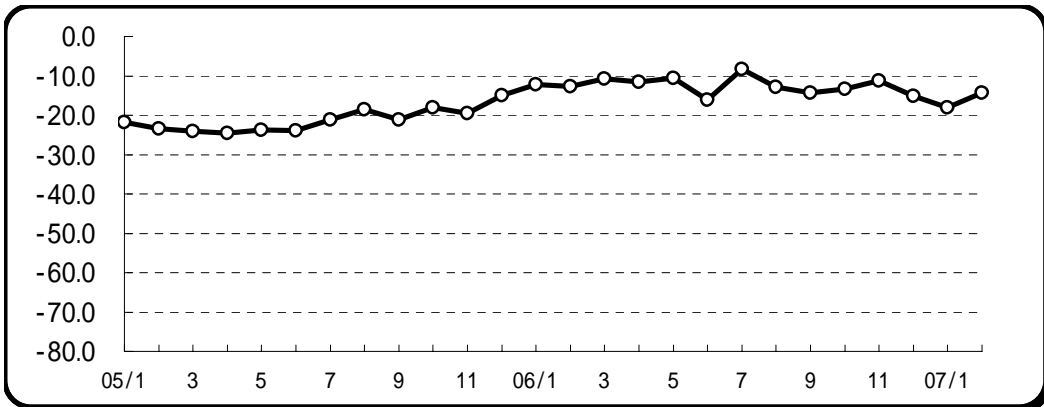
	18年 9月	10月	11月	12月	19年 1月	2月	先行き見通し 3~5月
全 国	27.0	25.2	24.5	25.2	28.0	27.8	20.0 (16.9)
北海道	28.6	30.2	26.4	32.7	39.8	39.0	32.7 (27.3)
東 北	33.6	27.7	24.5	27.4	29.3	36.7	25.6 (21.3)
北陸信越	18.1	10.6	16.5	11.7	17.0	14.0	8.1 (12.7)
関 東	24.3	25.2	23.1	23.4	25.2	23.4	17.7 (9.7)
東 海	22.5	20.6	15.6	22.4	19.0	19.8	19.2 (15.5)
近 畿	29.4	24.9	34.4	26.4	33.1	34.2	23.9 (24.2)
中 国	34.3	37.8	29.4	26.5	32.1	35.0	24.6 (27.3)
四 国	36.9	35.3	32.1	38.6	40.0	33.6	23.6 (13.2)
九 州	24.2	22.8	19.8	27.0	25.0	28.6	14.3 (13.6)

業況D I（前年同月比）の推移（全国）

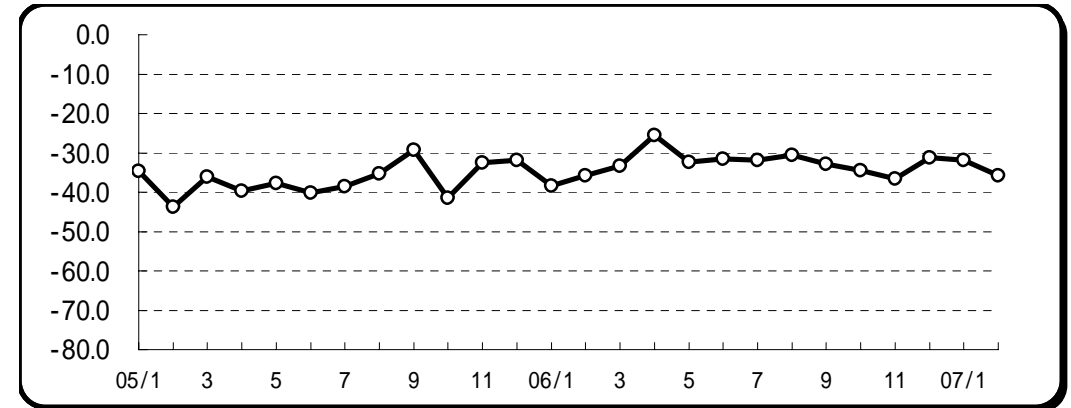
建設業



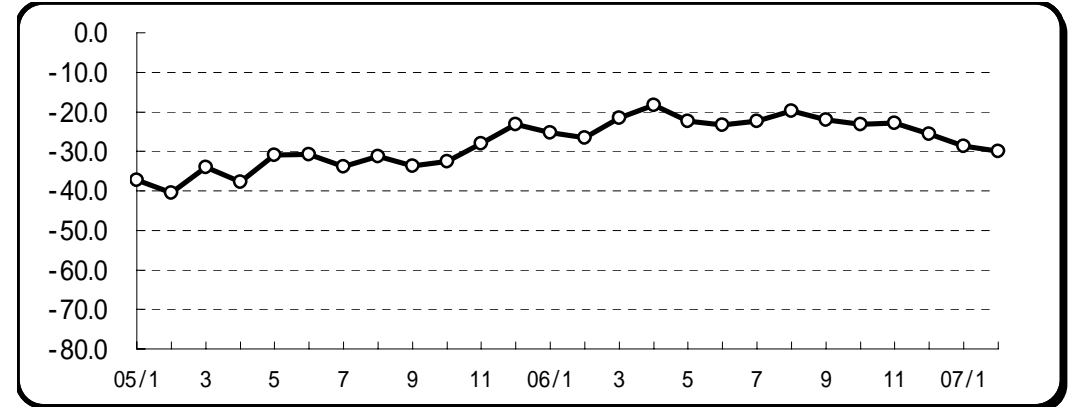
製造業



卸売業



小売業



サービス業

